

【配点】 ①・②・③・⑤ 各2点×23 ④ 2点 ⑥ 6点 ⑦ 4点 ⑧ 8点 その他 各4点×10

1 島国 2 真相 3 苦心 4 平和 5 公式

6 談話 7 皿 8 協力 9 別人 10 結果

2 1 イ 2 イ 3 ウ 4 ア 5 ウ

3 1 主語 ア 述語 オ 2 主語 ウ 述語 オ 3 主語 イ 述語 エ

4 主語 ウ 述語 オ 5 主語 ウ 述語 オ ③ 各完答

4 ① 首にナワをつけ ② ひっぱられ

2 ケイゾウが強くひっぱられるのを  
いやがっていること。(2 同意可)

3 ちよつとき 4 ウ ⑥ エ ⑧ イ 6 きれいにジ  
(5 完答)

5 1 ウ 2 A イ B エ C ア

3 X 人の気持ちを想像する力

Y 新しいアイデアを生み出す力

4 相手のいいたいことを十分に理解  
(4 同意可)

5 イ

1 (漢字の書き取り)

1から10までの漢字はすべて、ベーシックのトレーニングテキストにて出題されているものである。漢字は、正しい字形を覚えるために反復練習をすることはもちろんのこと、意味調べもして、漢字と意味とをセットで覚えていくことが大切である。また、正しく覚えるために、ふだんから一画一画書いてねいに書くことも心がけよう。2「真相」の「相」を「想」にしないようにしよう。8「協」の左側を「木」にしたり、10「結」の右上を「土」にしたりしないように気をつけよう。

2 (国語辞典の使い方)

国語辞典は、見出し語が言い切りの形で五十音順にならんでいる。規則にそってならんでいるので、その規則をおさえておこう。濁音や半濁音(「ば」や「ぱ」など)は清音(「は」など)といったんは同じ字としてあつかうこと、小さい「っ」なども「つ」などと同じ字としてあつかうこと、長音(「ー」)は文字におきかえて考えることは知っておきたい。このように説明するとむずかしく感じるかもしれないが、実際に辞典を引くことで自然と慣れてくるので、ふだんからどんどん辞典を引こう。

3 (述語ー主語)

まずは述語をはっきりさせるのが鉄則である。述語は、文をしめくくる働きをすると同時に、主語に対して「ドウスル／ドウシタ」「ナンド」「ドンナダ」といったことを述べる部分である。原則として文末にくるが、そうでない場合(倒置という)もあるので気をつけよう。

4

1 直前でケイゾウさんが言ったとおりになっているのだと考える。続きを読んでも、「ケイゾウさんは、ぐいぐいひっぱられていきます」「みみこがナワをひきずったまま」と書かれていて、ふたりがナワをつけられていること、ケイゾウさんはひっぱられていることがわかる。

2 直前にあるのもこ先生のことば「あんまりひっぱらないでって、言ってるんじゃない？」を聞いて、「ももこ先生、わかってきてる」と言っているのだから、「あんまりひっぱらないで(ほしい)」という表現を使って答えを作ることができ。また、問4の選択肢エ「首をひっぱられてくるしかつたんだよ」を使って答えを作ることできる。(ただし、問4の答えはエではない。)

3 問いに「みみこのことばの中から」とあることに注意しよう。つまり、逃げたことについて、みみこ自身が何と説明しているかを見つけないといけないことである。

4 ケイゾウさんが女の子をつついたのは確かで、問題はなぜつづいたかである。ケイゾウさんが女の子をつついたのはどういうタイミングだったかという点、「女の子がみみこを追いかけて、車道にとびだそうとした」とき、そして「一台の車があるすこいきおいで道をとおりすぎ」るすぐ前である。これはつまり、女の子がもう少しで車にひかれそうだったという点である。女の子がひかれなかったのは、ケイゾウさんにつつかれて、車道にとびだせなかったからである。

5 「ぽつんと」は、ほかからはなれて一つ(ひとり)だけあるようすを表す。「げっそり」は、急激に疲れて気力を失っているようすを表す。

6 問3からの流れでみみこがしたことである。みみこ自身は、女の子が「ちょっときつく抱きすぎるからおりた」「そこに車がきたから、よけた」と言っている。これらのことがおこった場面に書かれているのは、「みみこがナワをひきずったまま、ドタドタ道のまん中へ逃げていき」「車がくる」ことに気づいて、「きれいにジャンプして道のむこうに消えた」ということである。

5

1 ①の直前に「しかも」という接続詞があることに注目できただろうか。前の一文の内容をふまえると、人間にはできないようなことがコンピュータには可能であるとわかる。よって計算などのミスをしてしまう人間に対して、計算などのミスを一切しないコンピュータというイメージが最も読み取れるウとなる。

2 Aの直前では「仕事のおよそ半分が、AIに置きかわる」Aの直後では「心配はいりません」という反対の内容をつないでいるので逆接の「でも」のイがはいる。Bの直前では「AIが外国語を日本語にほんやくしてくれる」とあり、Bの直後では「AIが『わかった』とほんやくしたとします」と具体的な日本語が挙げられているので「たとえば」のエがはいる。Cの前には「こまっっているお客さんの問題を解決したり、買い物のもので「た」とあり、Cのあとには「お客さんの心をつかむチラシのデザインや、売り方のアイデアを考えるのも」とあり、Cの前後でAIが苦手としていて人間が得意としていることの並列になっているので「また」のアがはいる。

3 AIの苦手なものとして、——線②の直後で「自分で考えて新しいものをつくりだす力と、人の気持ちを想像し、かわっていく力」が挙げられているが、字数指定に合わないため同じ内容の本文中の他の箇所をさがそう。

4 AIがほんやくした言葉をただ知るだけでは、その言葉にふくまれている「心の動き」まではわからず、「相手のいいこと」がこちらには十分に伝わっていないのかもしれないと筆者は考えている。実際に自分で学ぶことによつて、ことばにふくまれている「心の動き」や本当に「相手のいいこと」が理解できるようになると言っているのである。

5 AIは計算することや記憶することといった作業は得意としているが、自分で考えたり人の気持ちを想像したりすることは苦手としている。AIのほうに効率よくできることはAIにまかせ、人間はAIにはできないことに集中すればよいと筆者は述べていた。よってイが答えとなる。